

技能評価システム移転促進事業（SESPP）

事業実施報告書【カンボジア】

- ◆2018年10月16日（火）～10月20日（土）
- ◆カンボジア・プノンペン市 国立カンボジア工科大学（NPIC）
- ◆旋盤3級 技能評価技法（SEM）

2018年10月

1. 事業の全体概要

- (実施期間) 2018年10月16日(火)～20日(土)
(実施場所) カンボジア王国・プノンペン市
国立カンボジア工科大学(NPIC)
(職種) 旋盤3級 技能評価技法(SEM)
(講師) 稲川 文夫氏 (SESPP事務局 技術顧問)
(参加者数) 受講者8名

(実施日程)

日時	活動名(指導内容)
10月16日(火) 08:30～16:30	講義内容： 日本の技能検定制度 旋盤職種概念 作業要素一覧 基準と細目 旋盤3級実技試験問題の解説 実技試験実施要領の説明 準備する測定器について
10月17日(水) 09:00～16:30	講義内容： 採点要領の説明 実技試験問題を作成するために考慮する項目の説明 実技試験問題の作成演習
10月18日(木) 09:00～16:30	作成した実技試験課題の発表 学科試験問題の解説
10月19日(金) 09:00～16:30	旋盤3級及び2級学科試験問題の出題の傾向の解説 2級実技試験問題の解説 3級学科試験問題作成演習
10月20日(土) 09:00～16:30	3級学科試験問題作成演習 作成した学科試験問題の発表とディスカッション

2. 講評

◆ 総評

- ・5日間の研修で、曲がりなりにも実技試験問題及び学科試験問題の作成方法が理解できたように感じた。しかし、学科試験問題 30 問を作成したが、試験問題の作成ができるレベルに達した者は、半分程度であった。
- ・受講者全般、機械加工に関する知識、技能が不足しているように感じた。基礎的な部分が弱い技能もあるように思う。
- ・機械加工に関する知識、技能を向上させるためには、JICA プロジェクトの中で機械加工の専門家による訓練指導が非常に重要である。通常の訓練状況を観察し、長期的な視点でそれに応じたプログラムを作成して指導することが不可欠のように思う。
- ・職業訓練と技能評価（検定）は車の両輪であり、両者のバランスがとれた発展・向上が望ましい。また、国の産業を振興させるためには、ものづくりの基盤である機械加工分野の技能者が主要な人材となる。そのため、今回の 5 日間の研修を通して、まずは、機械加工に関する職業訓練を強化することが重要であることを痛感した次第である。

3. 受講者へのアンケート結果

◆ 受講者 8 名（回答者 8 名）

満足度	： 大変満足=7名 満足=1名	満足度	100%
役立ち度	： 大変役立つ=8名	役立ち度	100%
継続性	： 是非継続すべき=7名 継続すべき=1名	継続希望度	100%

【最も有意義な内容・項目はなんでしたか】

- ・実技試験問題と学科試験問題の作り方（7）
- ・はめ合い公差（6）、表面粗さ（6）、切削条件（6）
- ・等級（5）
- ・技能評価基準（4）
- ・実技の技能要素（2）
- ・切削油剤（1）、職種の概念（1）、精度（1）、工作機械（1）、安全と作業態度（1）

【要望事項・実施してほしい内容はなんですか】

- ・フライス盤評価方法（5）、訓練関係の英文資料（5）
- ・熱処理実験（3）、冶金工学（3）
- ・金型（2）、測定器の訓練用資料（2）
- ・測定器による測定のデモ（1）

【技能評価技法研修で実施してほしい職種はなんですか】

- ・機械組み立て（7）、フライス盤（7）
- ・CNC 旋盤（2）

（注）カッコ内の数字は回答者数を表す。

以上